

News Express

7月号

MARKET REVIEW

● 先月の振り返り

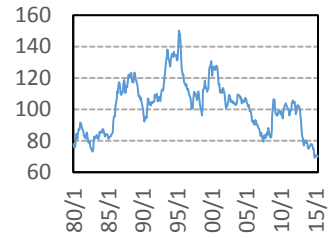
ドル円相場は、6月5日、12年ぶりとなる125円86銭の高値を付けた。ただ、6月10日、黒田日銀総裁が「実質実効為替レートが、ここからさらに円安に振れていくことはありそうにない。」と発言。その後、123円台まで押し戻される展開となってしまった。足元のドル円は、実質実効為替レートで歴史的な最安値水準にあり、黒田日銀総裁が言うとおりに、これ以上の円安水準は試しづらいのが現状なのかもしれない。あくまで過去を参考にした一つの目安なので、過信することは禁物だが、今後も意識していくことになりそうだ。

● キーワード解説

特定の2通貨間の為替レートをみているだけでは捉えられない、相対的な通貨の実力を測るための総合的な指標です。具体的には、対象となる全ての通貨と日本円との間の2通貨間為替レートを、貿易額等で計った相対的な重要度でウエイト付けて集計・算出します。

「実質実効為替レート」

(ポイント) [2010年=100]

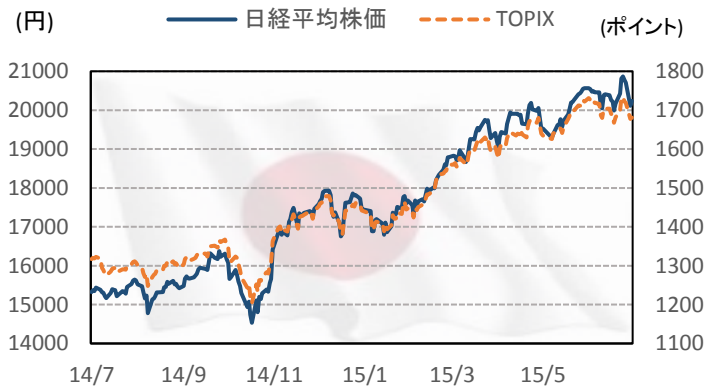


出所: 日本銀行

【先月までのドル円チャート】



【先月までの日経平均株価チャートとTOPIXチャート】

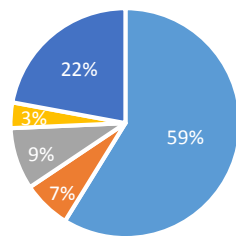


EXTRA VISION

◆ ギリシャ問題の終着点とは？

ギリシャ緊縮策の是非を問う国民投票は反対多数に終わった。ユーロ脱退もありうる状況が続く中、はたして、どのような結末が待っているのか？ギリシャ債務の約8割は公的部門向けの為、民間を巻き込むことはなく、すでに織り込まれていると話す楽観論者が多いが、そんな単純なものだろうか？ギリシャ問題以外にも中国株の失速、プエルトリコの債務問題、ウクライナの債務問題など為替にとって油断できない状況が続く。どの道にせよ、為替が大きく動く日は、そう遠くないかもしれない・・・

ギリシャ債務の内訳



- ユーロ圏
- IMF
- ECB等
- その他の公的機関
- 民間部門

出所: みずほ総合研究所

◆ 今月の主な経済指標

日付	時間	国	指標	予想
7/2	21:30	USA	雇用統計	23.3万人
7/6	23:00	USA	ISM非製造業景況指数	56.4
7/14	21:30	USA	小売売上高(前月比)	1.2%
7/15	23:00	USA	イエレンFRB議長発言	*
7/16	20:45	EU	ECB政策金利発表	*
7/17	21:30	USA	消費者物価指数(前月比)	0.4%
7/24	23:00	USA	新築住宅販売件数	54.6万件
7/30	3:00	USA	FOMC政策金利発表	*